

平成27年度第2回山形県図書館協議会議事概要

- 1 日時 平成28年3月16日(水) 14:00~15:30
- 2 場所 「遊学館」2階 学習室
- 3 議事(委員の発言、質疑等の概要)

(1) 山形県立図書館平成28年度運営方針(案)について

[松田委員] スマートフォンの普及などで、社会生活が大きく変動してきている。その中で、協議会で提言をまとめた図書館の将来のあり方については、借りるのを待つのではなく、大きな流れに積極的に取り組む姿勢がうかがえる。今後を期待している。

[加藤委員] まず、図書館に入ると、大きく変わった感じがする。見取図も用意された。ラウンジにある書架が斜めに配置され、休んでいる人が見えにくい工夫がされており、ゆったり過ごせそうだ。赤ちゃんコーナーも利用しやすい。

見取図の中に、どこでどのような展示がしているか示すものがあればなおよい。

児童書のところは、本の大きさがまちまちであるためどうしても不揃いになっている。背表紙に合わせてきれいに整理が必要である。

ポップ作りの講習をしたそうだが、中学生・高校生を対象にポップ作りコンテストを実施して入賞したポップを本とともに展示してはどうか。

また、読み聞かせできる人材の養成は引き続き必要で、県立図書館でも何らかの取り組みが必要ではないか。昨年10月に出版文化産業振興財団主催の「読みきかせサポーター講習会」を山形市のビッグウイングで開催したところ、県内各地から多数の参加者があり、関心の高さがうかがえた。現在いる読み聞かせボランティアは、今後は介護などで現役から離れていくので、引き続き養成が必要である。

[佐藤委員] 改善への熱意が伝わってくる。「本の森通信」はコミュニケーションツールとしてとてもよい。

吉野弘さんの朗読CDを作成中で、高校生が詩の朗読を行っている。これからは、本が読めなくなった高齢者や視覚障害者のための取り組みが必要。酒田市立図書館が「朗読者養成講座」を実施しているので参考にしてほしい。

「山形県図書館大賞」はよい取り組みだが、さらに、来館者・利用者に推薦してもらうような取り組みがあってもよいのではないかと考える。

[新藤委員] 高齢者向けサービスもさらに充実して欲しい。また、妊婦さんへの配慮も必要と考える。障害者差別解消法の施行が迫ってきているが、点字図書館との連携が重要と考えている。そこで、それらのことを含めて4点質問する。

- ① DAISY(視覚障害者向けデジタル録音図書)について、新庄市立図書館では装置を整備したそうだが、県立図書館で導入の予定はないか。
- ② レファレンスについては、郷土に関するものが比較的多いのではないかと考えられるが、内訳はどうか。
- ③ 貴重資料のデジタル化について、20冊ほど撮影したとあるが、業者にお問い合わせしたのか、職員が行ったのか教えてほしい。
- ④ 開館日について、他の図書館では月曜日に休館するところが多いことから、それ以

外の曜日を休館日として調整してはどうか。

(事務局) ①については、現在のところでは予算的に厳しい状況である。伊藤忠記念財団が寄贈をしているようなので、その活用も検討したい。

②レファレンスの件数は 6,700~6,800 件程度で、所蔵調査が一番多い。郷土に関する調査相談は全体の 1 割弱だが、調査に時間を要するものが多く、カウンターではなく、係の職員が対応している。レファレンスについては、一般県民への PR がまだまだ不足と考えている。

③貴重資料の撮影は職員が行っている。

④開館日の増加については、今のところ決めてはいないが、改修している中で検討していきたい。

[鈴木委員] 選書について質問したい。作家の全集で新版のものが出た場合どうするのか。具体的には、谷崎潤一郎の新しい全集が出たが、山形大学の図書館にしかない状況である。

(事務局) 基本的には「資料収集方針」に基づいて選書しているが、個々具体的には、それぞれの判断となる。予算の制約もあり、すでに全集としてあるものを購入するのは、現実的に難しい状況である。

[沼野委員長] ただいま出された、意見・助言を踏まえて、来年度の運営方針を事務局で決定してほしい。

(2) 山形県立図書館活性化基本計画(案)について

(生涯学習振興室長) 今月末までに教育委員会としての基本計画を固めたい。

来年度から大規模な改修のための取組みに入り、平成 31 年度完成を目途として考えている。

(資料に基づき説明)

[佐藤委員] 1 階の喫茶コーナーは、声が響くという指摘があるので、響かないように工夫してほしい。

[加藤委員] 聞き取り調査をみると、多くの人たちが県立ではなく、市立の図書館と勘違いしているように思えるのだが。

(生涯学習振興室長) 県立図書館の本来の役割は、図書館協議会で平成 27 年 3 月にまとめた「県立図書館の将来のあり方について」で検討されているので、それとは異なった視点から聞き取り調査を実施した。具体的には、高校生、大学生、読み聞かせサークル関係者や経済界の人たちに、どのようなサービスを望んでいるか聞いたものである。

まちづくりの核といった役割も果たせればよいし、これまでの図書館のよさに加えて、それにプラスアルファしたものをつくっていきたい。